

1. 件名「国立研究開発法人日本原子力研究開発機構原子力科学研究所S T A C Y（定常臨界実験装置）施設等に係る新規制基準への適合性確認に関する事業者ヒアリング（189）」
2. 日時：令和2年11月6日（金）17時05分～18時25分
3. 場所：（1）原子力規制庁10階南会議室
（2）国立研究開発法人日本原子力研究開発機構原子力科学研究所
※ 本ヒアリングは、テレビ会議にて実施
4. 出席者
 - （1）原子力規制庁
原子力規制部 新基準適合性審査チーム
戸ヶ崎安全規制調整官、三好安全審査官、榎見安全審査官
 - （2）国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
臨界ホット試験技術部 臨界技術第1課長 他2名
安全・核セキュリティ統括部 安全・核セキュリティ推進室 担当者

5. 議事要旨

- （1）国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（以下「原子力機構」という。）から、平成31年3月29日に申請（令和元年8月30日、令和2年2月14日、5月18日及び7月17日に一部補正）のあった原子力科学研究所の原子炉施設〔S T A C Y（定常臨界実験装置）施設〕の変更に係る設計及び工事の計画の認可申請書〔S T A C Yの更新（第3回申請）〕^{※1}における核的制限値の最大反応度添加率3セント/s以下を担保するための給水流量の調整について、以下の説明があった。
 - 最大反応度添加率（3セント/s）に相当する給水流量の調整は、低速流量調整弁の開度調整により行う。
 - 低速流量調整弁の開度と給水流量との関係については、使用前事業者検査時に、当該調整弁の開度と給水流量の関係を表す性能曲線を作成して決定する。
 - 当該性能曲線の作成に当たり、給水流量は水位測定と水位の変化時間から求めるため、低速流量計は用いない。
 - また、モックアップ試験で低速流量調整弁を閉から開、開から閉にしたときに、弁の「遊び」により5%の誤差があったため、性能曲線を作成する際に実機の調整弁の誤差を考慮する。
 - 実際の運転に当たり、解析により実験に必要な反応度添加率に相当する給水流量を求め、使用前事業者検査時に作成した性能曲線を用いて当該給水流量に対する弁の開度の決定し、開度を固定して給水を行う。
 - 低速流量計は、運転時の異常な給水流量を警報により監視するために設け、警報設定値の決定に当たって、低速流量計の誤差を考慮する。

(2) 原子力規制庁から、上記(1)の説明内容を資料として提出するよう求め、原子力機構から了解した旨回答があった。

6. 配付資料

なし

※1 [日本原子力研究開発機構から STACY（定常臨界実験装置）施設の変更に係る設計及び工事の方法を認可申請書の一部補正を受理（令和2年7月17日ホームページ掲載）](#)